

ネーバル・高力黄銅棒拡充

権田金属、60―110ミリ発売

JIS取得

直径60―110ミリのネーバル黄銅棒、高力黄銅棒を新たに販売する



れるという。

こうした背景から販売にあたって品質の基準となるJIS認証は不可欠だった。営業担当者は「これまで試作までは行ってきたが、認証取得でいよいよ本格販売できる」と今後の拡販に向けて期待感を示す。

銅プスパー、銅棒、黄銅棒などを生産する権田金属工業（本社〓相模原市中央区、権田有紀子社長）は特殊黄銅棒であるネーバル黄銅（C4641BDF）、高力黄銅（C6782BDF）の新規サイズを拡充する。新たに販売するサイズは直径60―110ミリの製品で、昨年12月中旬に日本検査キユーエイ（JICQA）の審査を経てJIS認証を取得。2021年の設備更新で、冷間引抜機の能力を従来と比べて4倍に高めたことで生産を実現した。今春から供給を始める予定で、すでに受注体制を整えている。

冷間引抜増強で実現

今回の丸棒製品の拡充は、快削黄銅棒と同じサイズをネーバル黄銅、高力黄銅でもできるようにしてほしいとのユーザーの声がきっかけだ。冷間引抜による製法が特長で、押出加工で生産する伸銅メーカが多い中、直径110ミリの製品をこの製法で加工できるのが

当社の強みだ（権田社長）。引抜加工は常温の材料を金型から引き抜いて伸ばす技術で、押出加工と比べて寸法精度が高い。これらの黄銅は優れ

た耐食性や強度を特長とし、その上でネーバル黄銅は耐海水性の高さから船舶部品や風力発電機などに活用。高力黄銅は490が抜以上もの高強度が特長で、船舶用プロペラ軸やポンプ軸などに使われる。いずれも船舶関係などを中心に安定需要が見込まれる一方、需要先から製品に対して高い信頼性が要求さ